

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2017年2月）**

目 次

<b>内 政</b>	
◆宗教団体登録条件の厳格化	2
◆スロバキアが取り組むべき課題：欧州委報告書	2
◆政党支持率調査結果	2
<b>外 政</b>	
◆キスカ大統領とポロシェンコ・ウクライナ大統領の電話会談	3
◆フィツォ首相の非公式EU首脳会合への出席	3
◆英国のEU離脱に関するライチャーク外相の発言	3
<b>社 会</b>	
◆鉄道駅における二重言語標識の導入	4
<b>経 済</b>	
◆ジャガー・ランド・ローバーによる従業員の募集開始	4
◆ジガ経済相等とUSスチール・コシツェ社の会談	4
◆スロバキア・ポーランド間の新ガスパイプライン建設に関する EU助成金の獲得	5
◆スロバキア中央銀行月報（2月）	5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

**内 政**

**◆宗教団体登録条件の厳格化（1日付スメ紙）**

国会は、キスカ大統領の承認を得られず差し戻されていたスロバキア国民党（SNS）提案の信仰の自由に関する改正法案を承認した。これにより、宗教団体を登録するために必要な成人会員の最低人数が2万人から5万人に引き上げられることになる。キスカ大統領は、この改正法案は憲法で保障されている基本的権利と自由を侵害していると述べていた。イスラム教財団は同改正法案成立に関し「スロバキアにおける宗教の自由にとって悲しい日となった」との声明を発出した。

**◆スロバキアが取り組むべき課題：欧州委報告書（23日付プラウダ紙）**

欧州委員会が公表した「欧州セメスター」の枠組みによる報告書によると、スロバキアが取り組むべき最大の課題は、司法制度改革と汚職対策である。ビジネスに関する規制緩和及び行政障壁の排除の分野では、昨年と比較して改善が見られないが、税徴収、医療手当、ロマに対する教育、司法制度、公共調達といった分野で若干の進歩があった。最も評価が高かったのは、長期失業者に対する政策、幼稚園・保育園の増設、給与引き上げに伴う教職人気の高まり、行政機関における人的資源管理の向上である。

欧州委の報告書によれば、改善に向けた努力が見られるものの、司法制度の効率化と独立性の向上が引き続きスロバキアの課題となっている。汚職問題はビジネス分野においても最大の障壁となっているが、犯罪行為の告発やペーパーカンパニー対策だけでは、この問題を解決するのに不十分である。また、スロバキアの国家財政は、依然として年金制度の維持にリスクを抱えている。診断に基づく統一支払いシステムや医療機関における情報通信技術の導入も遅れている。

**◆政党支持率調査結果（28日）**

世論調査機関Polisによる2月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。Smerと連立与党を形成しているSNSの支持率下落が続いている。他方、極右政党LSNSの支持率が上昇した。

政党	Polis	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	27.1%(43)	28.3%
SaS（自由と連帯）	13.8%(22)	12.1%
LSNS（我々のスロバキア）	13.0%(21)	8.0%
OLaNO－Nova（普通の人々・独立した人達－新たな多数派）	12.1%(19)	11.0%

SNS（スロバキア国民党）	9.0%(14)	8.6%
Sme rodina（我々は家族）	8.1%(13)	6.6%
Most-Hid（架け橋）	5.4%(9)	6.5%
KDH（キリスト教民主運動）	5.4%(9)	4.9%

## 外 政

### ◆キスカ大統領とポロシェンコ・ウクライナ大統領の電話会談（2日）

キスカ大統領はポロシェンコ・ウクライナ大統領と電話会談を行った。キスカ大統領は東部ウクライナ情勢について説明を受けると共に、更なる犠牲者を出し一般市民に苦痛を与えている暴力行為の激化に対して重大な懸念を表明した。また、キスカ大統領は、スロバキアはウクライナのことを常に気にかけている旨繰り返し表明すると共に、国際社会がウクライナ情勢の進展に適切に関与していくことが必要であると述べた。

キスカ大統領は、できるだけ早くEUが査証免除を導入することが、ウクライナ国民に対して大きな励みとなるというポロシェンコ大統領の考えに賛同した。

### ◆フィツォ首相の非公式EU首脳会合への出席（4日付プラウダ紙）

フィツォ首相はマルタで行われたEU非公式首脳会合に出席し、移民流入の抑制、トランプ政権の政策及びEUの将来について話し合った。フィツォ首相は、トランプ大統領の就任は、欧州がより自立し勇気を持った政治を行う好機となるとの考えを繰り返し表明すると共に、「（米国に対する）ヒステリーが見られることに驚いている。欧州は米国の弟ではなく、EUと米国の良好な関係が我々にとり重要なはずである。我々は、公約を果たしている新しい大統領を尊重すべきであり、選挙期間中の公約を実現していることを理由にトランプ大統領を批判する人がいるのは驚くべきことである」と述べた。

フィツォ首相は、EUが対露制裁の維持に関する公式声明を発出するのであれば、それに反対する意向であるとの考えを示すと共に、これまでEU全加盟国によるコンセンサスがないまま対露制裁が行われている旨指摘した。

### ◆英国のEU離脱に関するライチャーク外相の発言（25日付プラウダ紙）

ライチャーク外相は「1月にメイ英首相がワシントンを訪れたことから分かるように、英国は世界の中で自分の居場所を探し始めている」との認識を示すと共に、「英国に住むスロバキア人が不利益を被らないようにすることが、スロバキアにとり重要である」と述べた。

メイ首相は「悪い協定を結ぶぐらいなら、協定を結ばずにEUを離脱した方

がましである」との考えを表明しているが、ライチャーク外相は「正直に言う  
と、英国がEUと何も協定を結ぶことなくEUを離脱することは想像できない。  
EUとの協定なしの離脱は、EUよりも英国に悪い結果をもたらすことになり、  
また、英国・EU関係を規定している数千、数万の結びつきが全て機能しなく  
なることを意味する」と述べた。

## 社 会

### ◆鉄道駅における二重言語標識の導入（8日付スメ紙）

今年中に、一定以上の割合の少数民族が居住している地域にあるスロバキア  
の55の駅で二重言語表記が導入されることになる。そのうち54の駅がハン  
ガリー語であり、1つの駅はキリル文字で表記されるルシーン語である。ハン  
ガリー系政党である「架け橋(Most-Hid)」は、第三次フィツォ政権の政策綱領  
に二重言語駅名の導入を盛り込むよう働きかけていたが、まさにそのMost-Hid  
により指名されたエールシェク氏が、現在交通・建設・地域開発大臣を務めて  
いる。スロバキア国民党(SNS)は、二重言語駅名標識の導入に長年反対し  
ていたが、Most-Hidと連立政権を組んだ後に反対の立場を撤回した。

## 経 済

### ◆ジャガー・ランド・ローバーによる従業員の募集開始（10日付プラウダ紙）

ジャガー・ランド・ローバー(JLR)は、ニトラ工場における従業員の募  
集を本格的に開始している。現段階では専門職の募集を進めており、組立てラ  
インの従業員の募集は自動車生産が始まる2018年末までに始められる。今  
後2年間での雇用人数は、JLDの工場で1400人、そのサプライヤーで4  
000人に達すると見られる。平均月給は専門職で1500ユーロ、一般従業  
員は、ニトラの他工場、あるいはトルナヴァにあるプジョー・シトロエン自動  
車工場(800ユーロ)を上回る1000ユーロになると見込まれている。

### ◆ジガ経済相等とUSスチール・コシツェ社の会談（14日付Dennik N紙）

13日、ブラチスラバの首相府において、ペレグリニ投資兼IT化担当副首  
相、ジガ経済相及びカジミール財務相は、USスチール・コシツェ社の役員と  
会談を行った。会談の内容については一切公表されておらず、ジガ経済相は「ス  
ロバキア政府はUSスチール売却に関する交渉に加わるつもりである。東スロ  
バキアにおける雇用を守るために、国家の戦略的な企業の動向を見守ってい  
きたい」と述べるに留まった。

USスチール本社は、コシツェにある製鉄所の売却を検討しており、14億  
ユーロを提示した中国の河北鉄鋼集団との覚書に署名したとの報道があるが、

この件についてコメントするのを拒否している。また、スロバキア政府は、コシツェ製鉄所の株式を一部取得することに関心を有している模様である。

#### ◆スロバキア・ポーランド新ガスパイプライン建設に関するEU助成金の獲得（20日付各紙）

欧州委員会は、スロバキア・ポーランド間の新ガスパイプライン建設のために、建設費の40%に相当する1億700万ユーロを拠出することを決定した。同パイプラインの建設は、スロバキアのEustream社とポーランドのGaz System社が担当することになる。Eustream社スポークスマンのクビーク氏は「これは、スロバキアにとって、そして中欧にとって素晴らしいニュースである」と述べた。このプロジェクトが実現すれば、バルト海のシフィノウィシチェ港にある新ガスターミナルと結ばれることになり、ポーランドの安価なLPGの輸入が可能になる。

ジガ経済相は「スロバキアのパイプラインが、ポーランドと結ばれることになれば、スロバキアだけでなくEU全体のエネルギー安全保障を高めることができる」と述べた。新パイプラインの全長は164kmに及び、ポーランド南東部のストラホチナ町とスロバキア東部のヴェルケー・カプシャニ市にある圧縮施設（compressor station）が結ばれることになる。スロバキア側の建設費用は約1億4000万ユーロと見積もられており、2020年の完成を目指している。新パイプラインの輸送容量は年間50億立方メートルと見込まれているが、これはスロバキアの年間ガス消費量とほぼ同じである。

#### ◆スロバキア中央銀行月報（2月）

##### 1 GDP

ユーロ圏経済は2016年第4四半期の水準を維持しており、第3四半期同様、前年同期比で0.4%成長した。特に内需が成長を後押ししており、中でも小売業の売上と建設業の生産高が増加した。2016年第4四半期の鉱工業生産も引き続き成長している。

スロバキア統計局の速報値によると、2016年第4四半期のスロバキア経済は前期比で0.8%、前年同期比では3.1%成長した。2016年全体のスロバキアの経済成長は、EU基金を活用した投資が徐々に落ち込んだことにより3.3%と鈍化した。

##### 2 労働市場

2016年第4四半期の雇用率は前年同期比で2.6%上昇し、経済危機後では最も高い数値を記録した。前期比でも0.6%と堅調な成長を維持してい

る。主にサービス及び商業部門が雇用創出に貢献しており、両部門における雇用率は前年同期比で4.2%上昇した。

失業率に関しては1月も好ましい傾向が続いている。季節調整前の登録ベースでの失業率は前月から0.12%下がり8.64%であった。

2016年12月の平均賃金は961.6ユーロであった。サービス業における賃金上昇率は、IT分野を除き著しい伸びを見せた。経済成長が今後も続いた場合、賃金の上昇は徐々に他部門にも波及すると見られる。

### 3 物価

1月の物価は予想通り前年同期比で0.9%の上昇となり、2016年12月からのインフレが継続した。前月比では0.3%の上昇となったが、これには主に食品、サービス及び燃料価格が貢献した。2017年の平均インフレ率は1%をわずかに超えると見込まれている。

### 4 貿易

2016年12月の商品輸出は前年同期比で6.7%、輸入は6.9%増加した。貿易赤字は2億1100万ユーロであった。

# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

